



EXHIBITION FROM "HOMAM", 2007

高松の海岸沿いに建つ白い壁が美しい洋館マッケンジー邸は、戦前に建てられた洋風住宅の中で、W.M.ヴォーリス設計の建物として県内唯一現存する大変貴重なものです。貿易商社A.P.アーウィン商会の日本支社勤務になったダンカン・J・マッケンジー、エミリー・M・マッケンジー夫妻の住宅として1940年(昭和15年)に建てられ、1997年(平成9年)に国登録有形文化財に登録されました。

ダンカンは深く日本を愛し、日本茶を愛してこれを米国に紹介輸出することにつとめました。また富士山と静岡の地に魅せられ、ここに永住の計を定め、邸宅を営み、遂にここに永眠されました。夫妻は知的で行動派であり、形式的な行事にはあまり拘泥せず、心から人を愛し神を信じ、クリスマスには数千人の市民を招いてキリストを敬慕する催しを行うなど、心をこめて行いました。また、日本の美術品収集と夜空を眺める天体観測を趣味とし、塔屋からの星空を好み、この邸宅にペガサス座のβ星“HOMAM”(「勇者の幸福な星」の意)の愛称をつけました。

“HOMAM”はHome Of MAM(Home of Mac And Millie)ダンカンとエミリーの万の家、万宝の家、宝の家でした。地元ゆかりのある20代～50代の現代作家9名が、マッケンジー夫妻や“HOMAM”への思い、生活などに想いをはせ、邸宅の空間にさまざまな要素を取り込んだ作品を展示し、国登録有形文化財旧マッケンジー邸と、“HOMAM”を私たちに残したダンカンとエミリーの想いを、現代美術展により再考し、継承しました。

本展の開催にあたりご協力を賜りました皆様に対し、ここに深く感謝申し上げます。

2007年3月

静岡市文化振興財団

